アニマルウェルフェアの動きに対応

㈱イシイ
代表取締役社長　竹内　正博

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

２０２２年の養鶏産業の課題と対応について、日頃考えている近況の話題を提供させていただきます。

２０２１年は飼料高騰と人の新型コロナウイルス感染症に始まり、鶏の高病原性鳥インフルエンザ（ＨＰＡＩ）が続き、見通しが困難な年でした。２０２２年も引き続き、感染症の予防とＨＰＡＩの防疫に必要な対策に努める年となりそうです。

感染症の予防は３つの密（密閉・密集・密接）を避けることです。在宅勤務、ウェブ会議等は新しい仕事スタイルとなりましたが、今年もより進んだ遠隔地での仕事スタイルは継続されると思われます。２０２１年末から世界で感染が急拡大している新型コロナウイルス変異株（オミクロン株）が不安ではありますが、第３回目となるコロナワクチン接種が始まり、明るい陽射しとなることが期待されます。

ＨＰＡＩの防疫では、２０２０年10月１日に改定施行された家畜伝染病予防法の飼養衛生管理基準（鶏その他家きん）において、マニュアルの作成期限について２０２２年２月１日までに完成し保管することとなっています。

昨年に続き大切なブロイラーのアニマルウェルフェア（ＡＷ）の課題を取り上げたいと思います。海外では、２０２２年にドイツとフランスでは養鶏業界で広く行なわれている雄のひよこの大量殺処分が、禁止されます。卵を産まず、食肉としても劣るとされるため行なわれている大量殺処分が、「ＡＷの向上」の観点から禁止されます。新たなＡＷの動きが始まります。

国内では、２０２２年に農林水産省の主催でＡＷに関する意見交換会が初めて開催されることになっています。委員会（意見交換会）は、２０２１年６月３日に農林水産省がプレスリリースした「養鶏・鶏卵行政に関する検証委員会報告書の提言」（https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/hisyo/210603.htm）に対して、６月15日にプレスリリースした「報告書の提言を踏まえた農林水産省の改善策」（https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/hisyo/210615.html）として実施されます。

そこで、ＡＷに関する意見交換会は農林水産省の改善策として、「ＡＷに対する相互理解を深めるため、幅広い関係者による意見交換の場を定期的に開催する」ということが記載されています。会自体は、特段、何かを決めるという場ではなく、幅広く意見を聴取して今後のＡＷの推進に活用するというもので、学識経験者、生産者、と畜・食鳥処理、流通・外食関係者、消費者、行政等の各分野から委員が出ると思われます。

検証委員会報告書の提言は、今後のわが国におけるＡＷの推進に当たっては、最新の科学的知見、国際的動向、流通・食品加工・外食・小売り事業者の動向等の様々な要素も考慮した上で、より科学的・戦略的に対応していくべきとしています。農林水産省の改善策は、ＡＷに関する最新の科学的知見や国際的動向を考慮した施策を推進するため、以下の調査等を恒常的に実施します。

ア・国内外の研究機関等におけるＡＷの向上に資する研究成果の収集

イ・各国（欧米諸国、アジアモンスーン地域等）のＡＷへの取り組みに関する調査

ウ・流通・食品加工・外食・小売り事業者等のＡＷに関するニーズの把握

――などです。把握した情報を共有し、ＡＷに関する相互理解を深めるため、幅広い関係者による意見交換の場が定期的に開催されます。ＡＷが業界にとって生産性改善と社会的価値向上につながればと思っています。

２０２２年は感染症とＨＰＡＩが収まり、飼料価格が再生産可能な水準に安定する年になってほしいと願っています。本年が良い年でありますように。

（徳島県名西郡石井町高川原字高川原71―1）